

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム進捗評価結果表

課題(研究領域)	行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開
研究テーマ名	社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明
研究代表者	石井敬子
所属機関・部局・職	神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究成果の総合評点：S	
これまでの研究成果に係る所見	
<p>文化現象の発生をめぐる問いに取り組む本研究は、遺伝子と社会・文化環境の共進化の考え方を援用しながら、文理融合型の探究を進めて、文化と遺伝子との相互作用は限定的であり、文化差を決めるのは社会生態学的環境であって、個体発生レベルでの適応の帰結であることを示唆する知見を得ている。自然科学的手法でもって、社会科学の適応仮説を支持する見解に達したと見なされるものであり、学術的意義は十分に確認できる。本研究ではさらに、適応過程において環境要因が内分泌レベルに作用して共感や幸福感などの精神的健康に反映される可能性に関する知見も得ている。これによって環境要因と遺伝子の相互作用を解明する新たな研究課題が導かれており、今後の発展も期待される。成果も既に活発に国際学術誌に発表されており、あらゆる点で高く評価できる研究と言えよう。</p>	
研究期間の延長に係る所見	
<p>延長申請書に記されている研究計画は、当初の計画を継続しており、目的も内容も適切でよく練られたものである。延長理由として述べられている次の2点、(1) 妥当なサンプルサイズを得るための追加のデータ収集、(2) 相関研究の域を出ないという現状の問題点を克服し生物学的な機序を考えるためトリプトファンサプリ投与実験により因果関係確認の段階へと進む、についてもいずれも妥当と見なされる。ただし、その薬物投与実験については、倫理審査をより慎重に進めていただきたい。研究チームは、国際的にまとまりのとれた構成となっており、研究遂行のための予算規模も適切である。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い